

法学部の公募制自己推薦（AO 型）入学試験が変わります

國學院大學法学部法律学科を志願する皆様へ

國學院大學法学部は、公募制自己推薦（AO 型）入学試験について、令和 9 年度入学者を対象とする入学試験から、入学者選抜の方法に一部変更を加えます。

なお、法学部法律学科法律専攻・政治専攻の受験生を対象とする院友子弟等特別選考入学試験の第 2 次選考・第 3 次選考は、法律専攻・政治専攻の公募制自己推薦入学試験の第 1 次選考・第 2 次選考に準じて実施します。

1. 入学者選抜の方法の主な変更点

法律専攻・政治専攻の受験生の第 1 次選考は、アカデミック・リテラシー・テスト型（ALT 型）レポートほかに基づく書類選考から、小論文試験に基づく選考へと変わります（「アカデミック・リテラシー・テスト型レポート」から「アカデミック・リテラシー・テスト」へ）。また、第 2 次選考は、自己アピールと ALT 型レポートに関する口頭試問を中心とする面接試験から、自己アピール等を中心とする面接試験に変わります。

詳しくは、「2027 年度（令和 9 年度）公募制自己推薦（AO 型）入学試験要項」でご確認ください。

2. 小論文試験に関するアドバイス

（1）法律専攻の受験生を対象とする「小論文試験」について

法律専攻の受験生を対象とする小論文試験は、試験問題で提示されたテーマに関して、与えられた資料等に基づき、1000 字から 1200 字程度の文章を作成することに挑みます。小論文試験の試験時間は 120 分間ですが、60 分程度を使って資料等を読み込み、残りの時間で文章を書き上げることが求められます。

大学生になると、（小）論文やレポートの執筆を求められることがあります。こうした（小）論文やレポートは、自由な作文ではなく、資料を収集・整理・分析したうえで、一定の文章構成にしたがって作成することを求められます。公募制自己推薦入学試験では、とくにこうした資質・能力（リテラシー）に優れた受験生を選抜しています。

もっとも、いきなり資料に基づき一定の文章構成にしたがった（小）論文・レポートの作成を求められても、ある程度練習を重ねなければ、自力で作成することは困難です。このことを考慮して、従来の ALT 型レポートにおいても、レポート作成にあたって一定の誘導を付してきました。「小論文試験」においても、文章作成にあたって、一定の誘導を付します。これは、①ヒントをもとに文章を組み立てる力（文章構成力）の程度を試すもので、小論文の文章構成がこの誘導に従っているかを評価します。また、小論文の記述内容を通して、②与えられた資料等を正確に読めるか、③資料等から情報を適切に収集し整理・分類のうえ的確に分析できるか、④分析結果に基づいて自分の意見を論理的・説得的に主張できるか、を評価します。

1000 字から 1200 字程度の文章を作成することは、皆さんにとって、普段なかなか取り組む機会に乏しいことかもしれません。そこで、「現代の国語」や「論理国語」、「国語表現」

の授業などを通して、書くことやその前提ともなる読むことに慣れておきましょう。普段から新聞の社説などを文章構成に注意しながら読むことも、非常に有効な対策になるでしょう。また、小論文試験で提示されるテーマは、「公共」や「政治・経済」の授業で取り扱われる事柄とやや親和的な傾向にあります。そこで、「公共」での課題探究等に積極的に取り組むことも効果的かもしれません。

初見の資料に基づいて文章を作成することは、皆さんにとって、容易ではないことであるのかもしれませんが、しかし、この点に関する受験生の条件は同じです。法律専攻を志願する皆様の、公募制自己推薦（AO型）入学試験への出願を心よりお待ちしております。

小論文試験の具体的なイメージを掴むことができるよう、國學院大學のホームページで、試行問題（サンプル問題）を公表します。また、令和8（2026）年8月1日（土曜日）・2日（日曜日）開催のオープンキャンパスでは、試行問題（サンプル問題）の解説を行います。

（2）政治専攻の受験生を対象とする小論文試験（文献事前指定型小論文試験）について

本学法学部法律学科政治専攻では、学修にあたり、多くの文献を読むことを求めています。文献を「読む力」やレポート等を「書く力」は、政治専攻の「基礎演習A・B」等の授業でも培いますが、公募制自己推薦入学試験では、とくにこうした資質・能力（リテラシー）に優れた受験生を選抜するのに適した方法として、文献事前指定型小論文試験を採用します。小論文の記述内容を通して、情報の収集・整理・分析能力や論理的思考力、表現力等を評価します。

政治専攻の受験生を対象とする小論文試験では、事前に指定された文献（指定文献）等を読み込んでいることを前提として、一定の分量の文章を作成すること等に挑みます。指定文献は試験時間中に持込・披見することができ、指定文献への書き込みの有無は問いません。そこで、最初に、指定文献全体を貫く大きなテーマを把握したうえで、目次や見出し等を頼りに指定文献の文章の全体構造を捉えておきましょう。そのうえで、いわば筆者と対話しながら指定文献の論旨を追うとよいでしょう。自分の考え・意見を形成するのは、こうした準備作業に取り組んでから行いましょう。

文献事前指定型小論文試験の具体的なイメージを掴むことができるよう、國學院大學のホームページで、試行問題（サンプル問題）を公表する予定です。また、令和8（2026）年8月22日（土曜日）開催のオープンキャンパスでは、試行問題（サンプル問題）の紹介等を行う予定です。

3. 面接試験に関するアドバイス

法律専攻・政治専攻の受験生を対象とする面接試験は、個人面接の方式で、1人あたり20分程度の時間をかけて行います。

最初に、5分以上10分以内で、自己アピールをしてもらいます。自己アピールは、入学試験要項掲載の「エントリーシート」に記述した本学法学部法律学科法律専攻・政治専攻の志望理由や自己推薦の理由を、敷衍して口頭で説明するものです。法律専攻・政治専攻で学ぶことに対するあなたの意欲・熱意と、あなたが評価して欲しいと考えるあなた自身

の強みを、アピールしてください。自己アピールにあたり、フリップやレジュメ等の紙媒体やノートパソコン、タブレット端末等の電子機器を持参して使用することができます。

自己アピールの後、質疑応答に入ります。質疑応答は、とくに自己アピールの内容や、「エントリーシート」に記述した「社会への関心」に関連する事柄を中心に行います。主に質疑応答を通して、いわゆるコミュニケーション能力を評価します。自己アピールを第三者に聴いてもらい、どのような質問がされるか、質問にどう答えるか、練習しておくといでしょう。

なお、法律専攻の面接試験では、「小論文試験」についての質疑応答はいたしません（緊張を解きほぐすため、小論文試験の感想を求めるようなケースがあるかもしれませんが、それに対する回答内容は、評価の対象外です）。これに対し、政治専攻の面接試験では、「指定文献」に関連してされる場合があります（例えば、筆者が最も伝えたいと考えた事柄は何か、それについてあなたはどうか考えるか、等）。詳しくは、「入学試験要項」で必ずご確認ください。

以上